

# 多様な地域の実情に合った ITS の社会実装を考える

## ～ 現場の実情・実例から学ぶ ～

〔ご報告〕

ITS Japanでは『第3期中期計画（2016～2020年度）』\*の『多様な地域の実情に合ったITSの社会実装』の具体化に向けて、基礎自治体や地域ごとのITS推進団体等との連携強化を図りつつ、『現場を知る』ことを活動の重点に据え、地域の課題や先進的な取り組み、事例について、現地訪問や関係者との意見交換を中心とした活動を進めています。

(※ITS Japan第3期中期計画 [http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid\\_210/](http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_210/))

### 「おでかけ交通博 2019 in はちのへ」参加報告

10月18日（金）～19日（土）、青森県八戸市で「おでかけ交通博2019 in はちのへ」が開催され、東北地方の各地より、自治体、交通に関わる各種団体や民間企業、大学関係者など約150名の参加者が集まりました。

#### ■「おでかけ交通博」とは

地域の「おでかけの足」のあり方を考えるきっかけとするため、東北地方で、年1回開催されています。東北地方を中心に交通事業者や自治体、大学、NPO、民間事業者の幅広い層の参加者があり、トークセッションやポスターセッションを通して、「おでかけの足」の取組成果や課題を情報共有し、参加者間の交流を図って、地域の「おでかけの足」の確保・維持・改善に資する場としています。平成27年より開催されており、今回で6回目となります。

共催：国土交通省東北運輸局、八戸市

協力：国立大学法人福島大学

**第6回 おでかけ交通博 2019 in はちのへ**  
みんなで「おでかけの足」を考えませんか？

令和元年 10月18日(金) AM:10よりエクスビエーターセッションwith東北仕事人  
19日(土) エクスカーション

会場 **八戸グランドホテル**  
参加人数 約200人程度(事前申込み)

**開催目的**  
これまでにないスピードで人口減少や高齢化が進む中、地域公共交通の利便性は減少し続け、買い物や通学、通勤といった日常生活の利便性が大きな課題となっています。このため、こうした地域の「おでかけの足」のあり方を考えるきっかけとするべく、東北地方を中心に、地域公共交通の活性化や交通まちづくりなどに課題を抱えている約20団体の方々に集まっていただき、「第6回おでかけ交通博2019 in はちのへ」を開催します。

**開催プログラム**

10:30～ 【挨拶】主催者挨拶(東北運輸局) ウェルカムスピーチ(八戸市)  
【午前の部】トークセッション with 東北仕事人\*  
八戸圏域の地域づくり等について、公共交通関係者や有識者等と交流、トークセッションを行います。  
登壇者(八戸市 五戸町 奥上町 階上町)おでかけ支援センター 若菜 千穂 先生 池田 幸子 先生 寺尾 大輔 先生 高橋 勇真 先生 寺尾 大輔 先生 若菜 千穂 先生

13:00～ 【午後の部】ポスターセッション  
参加団体が分けて、私たちのブースではこんな発表をします!というPR後、各ブースでポスターを用いて、参加者に直接現地内容を説明しながら意見交換等を行います。

17:00 【閉会】閉会後、別会場にて交流会\*(会費別)を開催いたします。  
\*交流会は、懇話会形式で実施いたします。

共催 国土交通省東北運輸局・八戸市 協力 国立大学法人福島大学

#### ■プログラム

【1日目午前の部】10:30～12:00

パネリスト:

畠山 智\* (八戸市都市整備部次長 兼 都市政策課課長)

寺尾 大輔 (五戸町総合政策課 総務班長)

高橋 勇真 (階上町総合政策課 主幹)

在家 秀則 (一般財団法人VISITはちのへ)

若菜 千穂\*

(特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事)

※が、東北仕事人

東北仕事人は、正式名称「地域公共交通東北仕事人」であり、東北運輸局が創設した制度である。地域公共交通に対する熱意とノウハウを有した学識者、NPO、自治体職員等の人材のネットワークであり、地域公共交通の改善に取り組む地域に対する支援を行っている。東北運輸局が推薦者・自薦者を登録承諾している。



### 【1日目午後の部】13：00～17：00 ポスターセッション

- ・趣旨説明 福島大学 人文社会学群 経済経営学類 准教授 吉田 樹
- ・出展団体が1分間で、「私たちのポスターではこんな発表をします！」PR
- ・コアタイム 参加団体が各ブースで参加者に直接取組内容を説明し意見交換
- ・仕事人の時間 東北仕事人の皆さんから「これいいね！」というブースを講評・コメント

### 【2日目】エクスカーション

- ・エクスカーションは、八戸市内の1dayパスを購入し、バスとJRでまちなか周遊した。
- ・1dayパスは、1日1200円で4人迄八戸市内のバス乗り放題（市営バス、南部バス、十鉄バス：全バス会社）。そのため4人1組で行動した。

### ■トークセッション

トークセッションでは、八戸市、五戸町、階上町からそれぞれ話題提供とともにディスカッションが実施されました。

#### ◆話題提供のトピックス

- ・八戸市圏域では、八戸市を中心とした連携中枢都市圏域の7町村を結ぶバス路線網を形成しており、上限運賃政策を実施している。（域内上限500円（八戸市内は上限300円、本年10月1日より一律20円値上げ）。圏域人口が6年間で5.3%減少しているのに対し、輸送人員は4.4%増となっており、政策効果が持続している。
- ・「競合」から「共生」に向けて、事業者間ダイヤの平準化を実施し、トータルコストの低減と効率化を実現している。
- ・おでかけ機会を創出するために提携施設割引クーポンをバス降車時に運転手から受け取る日帰り路線バスパックを実施し、通院・通勤・通学とは異なる普段バスを使わない人達のバス利用を促進している。各市町に1つはバスパックが存在している。
- ・市内1dayパス1200円/4人までを導入。2人でも3人でも、1日1200円で、市内のバス3社（市営、南部、十和田観光）に1日乗り放題。
- ・コミュニティバスは一元化した運行体制としており、赤字補填ではなく、住民福祉として取り組んでいる。

### ■ポスターセッション

台風19号の影響で、久慈市と宮古市、那須町がポスター展示できなかったが、参加者間で活発な意見交換がなされました。

東北仕事人の時間では、住民主体の自家用有償運送やコミュニティバスの維持が不可能になった場合、タクシーは乗合のような形で最後の砦となります。実際にそういったケースを見ており、普段からタクシー事業の維持活性化も重要であり、公共交通網形成計画等にタクシーも入れるべきなどのコメントがありました。



おでかけ交通博は、地域のおでかけの足の維持・改善を考える自治体、交通に携わる各種団体や民間企業、大学関係者が集まり、それぞれの成果や課題を共有して、ノウハウを学ぶ、人づくりの場でした。

ITS Japanは統合的移動サービス実現へ向けて、今後も地域との連携活動も実施していきます。